

レジメンスケジュール

診療科	血液内科
適応	多発性骨髄腫
レジメン	血内MM ELd療法

申請・改訂日	2016年11月
備考	2023/3 希釈方法変更、生食250mLルートキープなしに変更

ケール関連	
-------	--

使用した臨床データ	がん化学療法レジメンハンドブック、添付文書、適正使用ガイド
-----------	-------------------------------

1~2ケール目(28日/ケール)																				
投与順	抗がん剤	薬品名	投与量	投与方法	時間・速度	備考	day1	day8	day15	day22	day28	
①	○	デキサメタゾン	28mg	内服	朝食後	エロツズマブ投与前3~24時間前に内服	○			○			○			○				
②		デキサメタゾン注	6.6mg	メイン	15分	エロツズマブ投与前60分前から投与	○			○			○			○				
		クロルフェニラミン注	5mg				○			○			○							
		ファモチジン注	20mg				○			○			○							
		生理食塩液	50mL				○			○			○							
		アセトアミノフェン	300-1000mg				内服	朝食後	エロツズマブ投与前30~60分前に内服	○			○			○			○	
③		生理食塩液	50mL	メイン	45分	前投薬終了後~エロツズマブ開始までのつなぎ	○			○			○			○				
④	○	エロツズマブ	10mg/kg	メイン	※※次頁参照 0.5~最大5mL/min	要フィルター	○			○			○			○				
		注射用水	※																	
		生理食塩液	※																	
※300mg/Vは注射用水13mLで、400mg/Vは注射用水17mLで溶解(25mg/mL)、必要量を採取。50kg未満は生食150mLで、50kg以上90kg以下は生食250mLで、90kg超えは生食350mLで希釈すること。 ※※Infusion reactionに注意しながら、初回は0.5mL/minで開始。問題なければ30分毎に段階的に1mL/min、続いて2mL/minまで上げることが可能。2回目は3mL/minで開始し30分後に4mL/minまで上げることが可能。 ※※3回目以降は最大5mL/minで投与可能。																				
⑤		生理食塩液	50mL	メイン	投与終了時の速度で	フラッシュ用	○			○			○			○				
⑥	○	レナリトミド	25mg	内服	朝食後															day1-21内服(3投1休)

3ケール目以降(28日/ケール)																				
投与順	抗がん剤	薬品名	投与量	投与方法	時間・速度	備考	day1	day8	day15	day22	day28	
①	○	デキサメタゾン	28mg	内服	朝食後	エロツズマブ投与前3~24時間前に内服	○			40mg			○			40mg				
②		デキサメタゾン注	6.6mg	メイン	15分	エロツズマブ投与前60分前から投与	○						○							
		クロルフェニラミン注	5mg				○			○										
		ファモチジン注	20mg				○			○										
		生理食塩液	50mL				○			○										
		アセトアミノフェン	300-1000mg				内服	朝食後	エロツズマブ投与前30~60分前に内服	○				○						
③		生理食塩液	50mL	メイン	45分	前投薬終了後~エロツズマブ開始までのつなぎ	○						○							
④	○	エロツズマブ	10mg/kg	メイン	※※次頁参照 0.5~最大5mL/min	要フィルター	○						○							
		注射用水	※																	
		生理食塩液	※																	
※300mg/Vは注射用水13mLで、400mg/Vは注射用水17mLで溶解(25mg/mL)、必要量を採取。50kg未満は生食150mLで、50kg以上90kg以下は生食250mLで、90kg超えは生食350mLで希釈すること。 ※※上表に続いて3回目以降は最大5mL/minで投与可能。																				
⑤		生理食塩液	50mL	メイン	投与終了時の速度で	フラッシュ用	○						○							
⑥	○	レナリトミド	25mg	内服	朝食後															day1-21内服(3投1休)

レナリトミド腎機能別投与量	
Ccr	投与量
30~60	1日1回10mgで開始し、2コース目終了後忍容可能な場合は15mgに増量可能
30未満(透析不要)	2日に1回15mgで開始
30未満(透析必要)	1日1回5mgで開始(透析日は透析後に投与)

減量・中止基準

レナリトミド		
副作用	程度	処置
血小板減少	30000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。その後30000/mm ³ 以上に回復した場合、本剤15mgを1日1回投与で再開する。
	休薬2回目以降再度30000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。その後30000/mm ³ 以上に回復した場合、本剤を前回投与量から5mg減量して1日1回投与で再開する。
好中球減少	1000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。 ①1000/mm ³ 以上に回復(ただし副作用は好中球減少のみ)した場合、25mgを1日1回投与で再開する。 ②1000/mm ³ 以上に回復(ただし副作用は好中球減少以外もあり)した場合、15mgを1日1回投与で再開する。
	休薬2回目以降再度1000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。その後1000/mm ³ 以上に回復した場合には、本剤を前回投与量から5mg減量して1日1回投与で再開する。
エロツズマブ		
副作用	程度	処置
Infusion reaction	G1	回復するまで投与速度を0.5mL/minとする。患者の忍容性が十分に確認された場合には、30分ごとに0.5mL/minずつ投与速度をあげることができる。
	G2	直ちに投与を中断すること。G1以下に回復した場合には、投与速度を0.5mL/minで再投与できる。患者の忍容性が十分に確認された場合には、30分ごとに0.5mL/minずつ投与速度をあげることができる。ただし、Infusion reactionが発現した投与回では、発現した投与速度を超えないこと。再投与後にInfusion reactionが再発現した場合には、直ちに投与を再中断し、中断日に再投与をしないこと。
	G3	直ちに投与を中断すること。原則再投与をしないこと。
	G4	直ちに投与を中断すること。

投与速度基準(適正使用ガイドより)

【投与速度】

本剤は0.5mL/分の投与速度で点滴静注を開始してください。

患者の忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら、投与速度を以下のように段階的に上げることが可能です。

ただし、投与速度は5mL/分を超えないよう設定してください。

投与時期		投与速度(mL/分)		
		投与開始 0～30分	投与開始 30～60分	投与開始 60分以降
第1サイクル	初回投与	0.5	1	2
	2回目投与	3	4	
	3及び4回目投与	5		
第2サイクル以降		5		